

平成24年1月30日

各 位

木材産業課長

木材製品等における放射性物質に関する参考資料の配布について

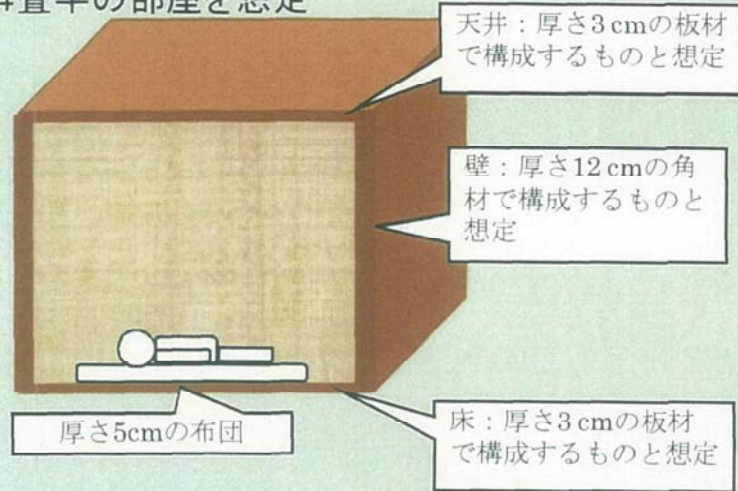
日頃より木材産業行政の推進に特段のご理解とご協力を頂いておりますことに感謝申し上げます。

さて、別紙のとおり平成23年12月27日に開催しました木材産業関係団体連絡会議において、口頭にて説明しました試算結果等について、関係者の皆様方より求められていたおりました参考資料を、別添のとおり送付致しますので、ご活用いただきますようお願い致します。

木材で囲まれた居室を想定した場合の試算結果

■試算の条件

6面が木材(汚染濃度338Bq/kg:406Bq/kgを気乾含水率20%で換算)
で囲まれた4畳半の部屋を想定



■試算結果

1) 1時間あたりの被ばく量：0.0014 μ Sv/h

2) 1年間あたりの被ばく量：0.01 mSv/y

(=0.0014 μ Sv/h \times 24 h \times 0.8(※) \times 365日)

※IAEA-TECDOC-401を参考に居住者は居住時間の20%を戸外で過ごすと仮定

備考：試算はIAEA-TECDOC-1376に基づいて実施。

(参考)日常生活と放射線

上記試算による被ばく量(年間)

0.01 mSv/y

国内の一人あたりの自然放射線量(年間)

2009文部科学省「放射線と安全確保」より

1.5 mSv/y

国内の一人あたりの自然放射線量の差(年間)
(県別平均値の最大県と最小県の差)

放射線医学総合研究所調べ(1988年)

0.4 mSv/y

東京都新宿区で観測された放射線量を年間に換算した場合
(平成23年12月20日時点の測定値0.053 μ Sv/hを使用)

0.46 mSv/y

➡ 上記試算値は追加被ばく量であり、他の数値と比較しても小さな値となる。

放射線被ばく線量相関図(仮)

